

## 「政府が畜産、酪農を守るために責任を果たす立場に立つことを強く求める」

日本共産党の島山和也議員は、13日の衆院農林水産委員会閉会中審査で初質問に立ち、深刻化する酪農・畜産経営の実態を示し、政府に抜本的な対策を迫りました。同委員会では、これまで日本共産党の委員がいませんでしたが、総選挙後は複数委員を配置して活動しています。

また、島山議員は質問に先立つ9日に農林水産省を訪れ、酪農・畜産経営の深刻な現状の打開に向けてとりくむよう申し入れました。この要請には、紙智子参院議員と斎藤和子、田村貴昭衆院議員が参加しました。

### 離農、離脱を食い止めるために、意欲ある生産者の支援と負担軽減を

島山和也議員は、道内では年間200戸の酪農家が生乳出荷をやめている経営環境の厳しさを指摘し、飼料、肥料、灯油、軽油、電力などの農業物価指数が2010年比で急上昇していることは、「アベノミクスによる円安と消費税増税が経営悪化を加速させている」と強調しました。加えて、小泉政権時に生産コストと市場価格の差を補てんする不足払い制度を廃止し、市場まかせにしたことが経営を追い詰めているとして「補給金制度を見直すべきだ」と迫りました。

さらに島山議員は、JA北海道中央会の生乳出荷停止酪農家の実態調査で、後継者がいながら離脱したなどの事例をリアルに示し、「政府の対策というのは、規模拡大を進める一部の担い手へ偏りすぎていると思うんです。」「現状維持でも、意欲ある生産者の支援と負担軽減へ、例えば設備をリフォームしたいという要望への支援などを検討すべきでないでしょうか」と畜産クラスター適用の柔軟な対応を求めました。これに答弁した農水省の松島浩道生産局長は、「その地域の事情に応じて、どのような経営体を位置づけるかにつきましては、基本的に地域の判断を尊重してまいりたい」と島山議員の要求を承認しました。

島山議員「この間の円安によって酪農家は苦しんでいるわけです。正面から畜産・酪農の現状を見てほしい」「再生産に見合った加工原料乳生産者補給金の大幅な引き上げがなければ、生産現場では担い手がいなくなつて、地方が崩壊してしまうという危機感があふれ返っています。補給金の大幅な引き上げが必要だと思いますが、いかがですか」と求めました。西川農水相は「できる限り農家のためになるように、努力を重ねてまいりたい」と答えました。島山議員は「政府が畜産、酪農を守るために責任を果たす立場に立つことを重ねて強く求めます」と再度要求しました。

島山議員は、「開拓農家として北海道に入り、日本のためにと食料もつくってきたのに、後を継いでくれと子どもに言えない農家の苦悩があります。苦境にあえぐ生産者をさらに追い詰めるTPPは、認めるわけにいきません」と生産者の思いを代弁し、日豪EPAによる関税引き下げの影響調査と対策を求めるとともに、TPP交渉からの撤退を求めました。西川農水相は、「日豪EPAについては調査し、対応する」と述べました。

# 衆院農林水産委員会一島山和也議員が初質問、酪農・畜産対策で農水省への申し入れも行う 「加工原料乳補給金の大幅な引き上げを」「意欲ある生産者の支援と負担軽減へ、柔軟な対応を」



2015年1月13日 衆議院農水委員会  
で初質問する島山和也議員



2015年1月9日 中川農水大臣政務官(左)に申し入れをする(右へ)斎藤、田村、紙、島山各議員